

脚本／絵 福井 春菜／香川 瑞姫

われらのひみつ しってるかい？



①

演出ノート

あお そら 青い空に、すんだ空気。

しゅうかく ある秋の日。

まいくんは小さな畑から、

たくさんのさつまいもを収穫しました。

まいくん「大好きなさつまいもがざつくざく！」

「いーっぱい食べるぞ〜」

まいくんはていねいにツルや葉っぱをわき
によけると、

さつまいもをたっぷり入れたカゴを抱えて

えっさほっさ えっさほっさ

—ぬく—

うれしそうに



②

台所だいどころについたまーくん。

まーくん「そうだ！」

いーっぱいあるから、みんなもよんで、
さつまいもパーティーをひらこう！
よーし、まずは
さつまいもの皮かわむきからだな！」

さつまいも「あつ、待つまって、まーくん！」

あわててそう言いったのは、
手ての中なかのさつまいもさん。

さつまいも「ぼくら、皮かわにも栄養えいようがあるから、
食たべたほうがいいんだよ！」

まーくん「そうだったんだ……！」
じゃあ、皮かわむかずにお料理りょうりするよ！」

—ぬく—



③

まーくんはまず、お米を準備。

ムキムキも「おおー！まずは炊きこみご飯か！

オレが一番に大変身だ！」

そういつて、さつまいもさんがひとり、

炊飯器の中へヒヨイつとジャンプ！

ムキムキも「だれよりも甘くなるぞー！」

つづいて、お野菜やチーズ、

ホワイトソースも準備します。

オシャレも「今度はグラタンね！」

まあっ、星形のにんじん素敵！」

次に持ってきたのはアルミホイル。

のんびりも「これは……焼きいもかなあ？

よおし、おいのばんだあ」

どンドン変身していくさつまいもさんたちに、

まーくんはわっくわく！

—ぬく—



④

あつちのお鍋もこつちのお鍋も、
さつまいもさんたちを入れてシユウシユウ
言っています。
フライパンの中の大学いもくんが、
まーくんに手をふりました。

大学いも「おーい、まーくん。

皮つきだと、むらさき色がツヤツヤ！

かっこいいでしょ?」

まーくん「うん。いろんなものに変身できて、

皮も使えて、かっこいい！」

まーくんと大学いもくんたちは、
にっこりと笑いあいます。

と、そのとき

—線までぬく—

………タタ………パタタ………タタタタ
おや? 何か聞こえてきますね。

………タタタタタタツ!
音はどんどん近づいてくるようです。

—のこりをぬく—



⑤

葉っぱちゃん「待って、待って〜！」

私たちも仲間にいれて〜！」

まーくん「ええっ!! 葉っぱちゃん!?!」

身体をひらひらさせながら走ってくるのは、
なんと畑でさようならしたはずの

葉っぱちゃんやツルちゃんたちでした。

まーくん「いれてあげたいけど〜、

葉っぱちゃんたちはダメだよ。

食べられないんだもん……」

葉っぱちゃん「ガーン……」。

そっ、そんなことないんだよー!

いいー? 見ててねー!」

そういうと……

—ぬく—

げんきよく

強くおどろいている
様子で

納得いかなそうに



⑥

葉っぱちゃんたちは、自分たちでてんぷらの衣をあっという間に作りあげ、お互いに小麦粉をパサパサツ!!
みんなすっかりまつしろに。

今度は、衣にポチヤン!
そのまま油の中へ。

葉っぱちゃん「えいっ! えいっ!
えーいっ!」

どんどん飛びこんでいきます。
葉っぱちゃん「まだまだいくよー!」

せーの!!
えいっ! えいっ! えいっ!
えいっ! えーいっ!

— かけ声に合わせながらぬく —

5回の「えいっ!」は、紙芝居の前のみなさんにもお願いして、声をあわせて元気に



7

てんぷらはカラッとあがりました。

葉っぱちゃんは胸を張って

葉っぱちゃん「ね、まーくん、私たちを

味見してみてくださいよー！」

まーくんはそおーっと口まで運んで、
かじっ！

すると……

サクサクツとした食感

何とも言えない、素敵な香り……

まーくん「お、おいしいー！」

葉っぱちゃん「でしよー？」

でも、それだけじゃないのよー！」

—ぬく—

自信满满に

おどろぎと
感動をこめて



8

そういうと葉っぱちゃんは、
ツルちゃんや、さつまいもさんといっしょに
歌い出しました。

葉っぱちゃん「♪われらのひみつ しってるかい？」

おいしいひみつ しってるかい？
皮が食べれる だけじゃない」

葉っぱちゃん「♪てんぷら美味しい だけじゃない」

葉っぱひらひら みそ汁泳ぎ」

ツルちゃん「♪私らツルちゃん

ピカピカきんぴら」

ツルちゃん「♪かきあげ つくだに

ポンポンアイディア」

葉っぱちゃん「♪おいもに葉っぱに 皮にツル

みんな美味しく 七変化！」

さつまいも「♪いもいもいもよ いもづくし

われらのひみつ ひみつはね
すてるとこなし 七変化！」

—ぬく—

楽しそうに
リズムカルに



9

しかし歌が終わると、

葉っぱちゃんはひとつため息……

葉っぱちゃん「それなのにさあ、まーくん。

ぼくら、お店にも連れて行って

もらえないんだよー」

悲しそうに

まーくん「たしかに、お店で葉っぱちゃんたち

見ないなあ」

葉っぱちゃん「そう、いつつも畑に

おいてけぼり……。だからね、

畑のわきで干からびるより、

食べてほしいの！」

さびしそうに

まーくん「そっか……！」

お店に売っていないものでも

『食べられるもの』ってあるんだね。

ぼくたちが『食べられない』って

思っているものって、

食べ方を知らないだけなんだ！」

—ぬく—



⑩

ついに、さつまいもパーティーの準備が
整いました。

テーブルには、さつまいもの炊きこみご飯、
さつまいものグラタン、焼きいも、大学いも、
葉っぱのみそしる、ツルのきんぴらに、
葉っぱとツルの天ぷら！

葉っぱちゃんたちが言っていた通り、
一種類の作物からたくさん種類の料理
ができあがりでしたね。

まーくんのお友だちもよんで、
さつまいもパーティーのはじまりはじまり！

—ぬく—



11

まーくんは、お友だちみんなに聞いてみました。

まーくん「ねえねえ、さつまいもの

葉っぱの食べ方、知ってるー?」

お友だち「いや!」

葉っぱは食べられないだろー!」

まーくん「ううん…… ぼくらは、

食べ方を知らなかっただけ!

ほらこれ、葉っぱのてんぷらだよ!」

お友だちは、おそろおそろてんぷらを、
かじっ!

お友だち「んっ!? うんまあーい!!」

まーくん「ほらね!

これからは食べ物ですてる前に、

どんな食べ方があるか、

ひみつを探ってみないと!」

意外そうに



⑫

「ごちそうさまでした!!」

リビングから聞こえてきた、まーくんたちの
元気な声に
台所にいたさつまいもさんたちも、にっこり。

そう、さつまいもさんたちのひみつは……
全部食べられて、
全部がそれぞれ変身できる。
使う人しただいで、
なんにでもなれるってこと。

今日もさつまいもさんたちは、
どこかできっと歌っています。

♪われらのひみつ ひみつはね
すてるとこなし 七変化!

おしまい

明るい雰囲気
リズムカルに
しめくくる